

国立公園に生きるまち。

— 東京・奥多摩サステナブル宣言 —

考えることから、守ることがはじまる。

東京の西の果て、
秩父多摩甲斐国立公園に抱かれたまち、奥多摩。
ここにあるのは、
人と自然が共に呼吸する、穏やかな日常。

川の清らかさも、森のやすらぎも、
そして、いのちの輝きも
私たち一人ひとりの選択と行動の積み重ねによって、
守られていく。

訪れる人も、暮らす人も、
互いを思い、自然の声に耳を澄ませ、
この地の美しさを未来へ手渡していくために。

考えて、守ろう。
国立公園での、ひとつひとつの振る舞いを。

#KeepBlueGreenNationalPark

美しい緑と青を、未来へ。

その全域が秩父多摩甲斐国立公園に属する奥多摩町では、
近年、観光客によるごみの放置など、自然環境への影響が課題となっています。
こうした状況を受け、国立公園内でのマナーアップを呼びかけ、
豊かな自然を次世代へ受け継ぐための行動指針をつくりました。

企画：奥多摩町まちづくり委員会